



マークの付いた行事は「石狩市 市民生活便利帖(動画版)」でもご紹介しています。 <http://benri.i-eris.tv/>



マークの付いた行事は「えりす いしかりネットテレビ」でもご紹介しています。 <http://www.i-eris.tv/>

7/29(火) 高校生交換留学生在が帰国

昭和58年から続くNPO法人石狩国際交流協会とキャンベルリバー市との交換留学生事業で、通算100人目の留学生となるショーン・ウィルソンさんが約11カ月の留学生生活を終え、帰国しました。ショーンさんからのメッセージです。「いしかりの皆さんは、とてもしんせつでした。私はたくさん友だちをつくりました。ホストファミリーの皆さん、ありがとうございました。私は日本のけいけんをわすれません」 ※この事業はホストファミリー、地域住民、学校関係者の皆さんの協力で成り立っています

Voice

ホストファミリーとして2回目の受け入れをしました。小6の息子がショーンの先生になって日本語を教えていたのはほほ笑ましかったです。キャンベルリバーは石狩のように雪が積もらないそうで、雪かきも楽しんでいましたね。(今枝 晴子さん)



7/30(水)~8/1(金) ソフトボールで交流



友好都市の石川県輪島市から、輪島中と門前中のソフトボール部ほか20人が石狩市を訪問。初日は花川中、花川南中、樽川中のソフトボール部3年生がレセプションに参加し、輪島市の訪問団を歓迎しました。2日目はスポーツ広場で、ソフトボールの交流試合を実施。暑さにも負けず熱戦を繰り広げた選手たちの懸命なプレーと真剣なまなざしから、子どもたちのさらなる飛躍が感じられました。

Voice

中学校生活最後の年に輪島市ソフトボール部のみんなと交流試合ができて、とても楽しかったです。自分たちの課題も見えたとし、今回の試合を今後に生かしていきたいです。(花川中学校3年ソフトボール部キャプテン 中村 小雪さん)



8/3(日) 浜益小劇場の定期公演

浜益コミセン「きりり」で、浜益小劇場が定期公演「さらば浜益丸～海の道が消えたあの日」を開きました。“陸の孤島”と呼ばれ、小樽市と海の道でつながっていた時代の文化、風習、そして暮らしていた人たちの思いが浜益小劇場ならではの演技で表現され、各地から集まった観客を魅了しました。終演後、そこかしこに体験談議で盛り上がる、当時の青年たちの輪もできていました。

Voice

(写真のように)学校の先生方が転勤で浜益を去るときには、今でも紙テープを使って見送ります。この時代からつながる浜益の文化です。(芦澤 肇さん)



みんなで手話! 手話サークル“ミズバショウ”

今号から表紙で始まった新コーナー「みんなで手話!」。その第1回に登場いただいたのは、平成10年から活動している手話サークル“ミズバショウ”のメンバーです。現在は40人が所属し、毎週火曜にりんくるで、主にろうあ者の方にご協力いただきながら手話を習ったり、手話で交流するなどの活動を行っています。

※こちらのサークルでは随時、見学を受け付けています。興味を持った方はぜひ下記までご連絡ください
申込先 (FAX)74・9246(神さん) ※会費は月500円

Voice

手話は、手の動きだけでなく、表情やスピードなどが加わった表現豊かな言葉です。石狩に手話条例が施行されてから、見学に来られる方が増えたので、もっとたくさんの方に興味をもってもらい、手話が少しでも広がるとすてきですね。(神 由紀さん)





まちの主な出来事を写真で振り返ります。

まちの話題



7/1(火) 石狩市成年後見センターオープン

石狩市社会福祉協議会に成年後見センターがオープンしました。成年後見制度に関わる相談を受けたり、家庭裁判所から受任の依頼により成年後見人(法人後見)となることもできるようになりました。

※石狩市では、成年後見センターが作成した支援計画に沿って活動する「市民後見人」を養成する講座を10月から開催するため、現在受講者を募集しています。詳しくは30ページをご覧ください

Voice

私たちの住むまちに成年後見センターができて良かった。今は親と暮らしていますが、将来1人暮らしになった時に心配だけど、制度は難しいので、困った時には相談に乗ってほしいです。(石狩大地の会の皆さん)



7/15(火) まちづくりラウンドテーブル

花川北コミセン内の石狩市市民活動情報センター・ぼぼらーとで開催。9回目となるこの日は「女性が元気なまちづくり」をテーマに、太田明子ビジネス工房代表の太田明子氏が講師となって、体験談を交えつつまちづくりについてお話ししました。続くワークショップでは、参加者たちが石狩で事業を行うと想定し、まちのいいものを話し合いながら、それを基に事業計画を作成。石狩のことを改めて知る良い機会にもなったようです。

Voice

少子高齢化が進む中、何か役に立つことがしたいと思い、参加しました。今回参加して勉強すること、地域の役に立つこと、好きなことを考えることができ、生涯現役で働くためにも頑張りたいと思います。(山崎 規子さん)



7/16(水) 緑苑台小学校の調理実習

緑苑台小学校のポプラ学級で行った調理実習の様子。この日は石狩産小麦の「きたほなみ」を使った「北海道産ホタテのお好み焼き」に挑戦しました。去年に引き続き講師には、同校向かいにある「Outdoor Café野菜香房」の新津賢二さんを招き、10人の児童が4つのグループに分かれて調理。中には普段から家で手伝いをしている児童が、キャベツを切るときにほかの児童に手本を見せてあげるなど、互いに協力しあう姿がほほ笑ましく、印象的でした。

Voice

一番大変だったのがキャベツを切ること。でも、楽しかったです。(左:伊藤 知己さん)

ホタテが嫌いだったのに、食べたらおいしくて、大好きになりました!(右:吉井 菜々花さん)



7/27(日)~8/10(日) 厚田の水彩画展



“北の海”をテーマに集まった66点の優れた水彩画を展示した「北の海 厚田アクアレーン 第2回水彩画展」が厚田スポーツセンターで開催されました。また、厚田資料室を第2会場として第1回受賞作品4点も展示。大賞受賞作品をはじめとした、質の良い作品に対して、訪れた多くの方から感嘆の声が上がっていました。

Voice

2回目を迎えた水彩画展は、市内外の水彩教室を訪問するなど、1回目以上に積極的なPRを行いました。また、展示方法も工夫し、展示数を前回の26点から大幅に増やすことができました。3回、4回と開催できるように頑張ります。(厚田アクアレーン実行委員会 薬田 敏彦さん)

